

2026年3月期 第1四半期 決算概要

テルモ株式会社
Chief Financial Officer
萩本 仁

2025年8月7日



CFOの萩本でございます。
2026年3月期 第1四半期の決算概要をご説明いたします。

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

ハイライト

■ 売上収益

- Q1として過去最高を達成
- 米州が牽引し好調な売上が継続、為替影響を除いて+6%の伸長

■ 利益

- 営業利益・調整後営業利益・当期利益の全てにおいて、四半期として過去最高
- 価格政策と適切な費用コントロールにより売上成長を上回る伸長を継続

本決算のハイライトです。

第1四半期は良好なビジネス環境が継続し、売上収益はQ1として過去最高の2,600億円でした。

特に北米での需要拡大が継続し、現地通貨ベースで6%伸長、5月に発表いたしました今年度の業績予想に対しても順調に進捗しております。

利益に関しては、営業利益、調整後営業利益、当期利益の全てにおいて四半期として過去最高を達成しました。

増収に加えて、グローバルに進めている価格政策と適切な費用コントロールにより、売上成長を上回るペースで伸長しており、GS26の営業利益の目標に向けて収益性の向上が着実に進んでいます。

次のスライドをお願いします。

P&L, FCF実績

- 売上収益：TISとグローバルブラッドソリューションの堅調な需要が継続
- 営業利益：売上増と価格政策が売上総利益を押し上げ

金額（億円）	FY24 Q1	FY25 Q1	増減率	為替除く増減率
売上収益	2,582	2,600	1%	6%
売上総利益 (%)	1,376 (53.3%)	1,455 (56.0%)	6%	8%
一般管理費 (%)	748 (29.0%)	755 (29.1%)	1%	6%
研究開発費 (%)	174 (6.7%)	164 (6.3%)	-5%	-1%
その他収益費用	-8	24	-	-
営業利益 (%)	446 (17.3%)	559 (21.5%)	25%	21%
調整後営業利益 (%)	511 (19.8%)	591 (22.7%)	16%	13%
税引前利益 (%)	456 (17.7%)	553 (21.3%)	21%	
当期利益 (%)	339 (13.1%)	418 (16.1%)	23%	
フリー・キャッシュ・フロー	150	107	-28%	
期中平均レート(USD/EUR)	156円/168円	145円/164円		

©TERUMO CORPORATION

4

TERUMO

PLとフリーキャッシュフローの実績です。

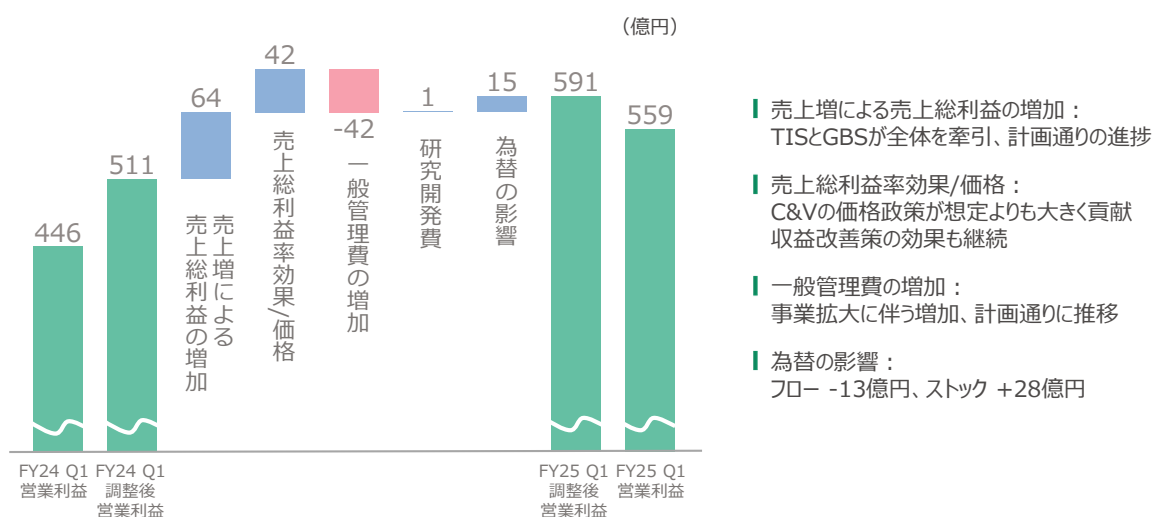
売上収益は、C&VとTBCTが牽引、為替のマイナス影響を受けながらも増収し2,600億円となりました。昨年度Q1は一時的な需要もあり高伸長でしたが、今期はそれを上回って増収となりました。

営業利益も、売上成長を大幅に上回る伸長を達成し、四半期として過去最高の559億円となりました。価格政策による粗利率の改善と、適切なコスト管理を実現したことに加えて、為替と一時収益も寄与し大幅増益となりました。

フリーキャッシュフローは107億円となり、前年比では42億のマイナスとなりました。事業拡大と関税影響によって在庫が増加したことが主要因ですが、適切な在庫管理を継続し、引き続きフリーキャッシュフローの最大化に努めてまいります。

次のスライドをお願いします。

営業利益増減分析：堅調な売上と価格政策により増益



©TERUMO CORPORATION

5

TERUMO

営業利益の増減分析です。

まず「売上増による売上総利益の増加」は、TISとグローバルブラッドソリューションが牽引しました。全体として通期の計画に対して予定通りの推移をしております。

「売上総利益率効果/価格」は、主にC&Vでの価格政策が大きく増益に貢献しました。特に北米での値上げと、中国でのVBP遅延により、計画を上回る効果を上げることができました。収益改善策の効果も順調に発現しております。

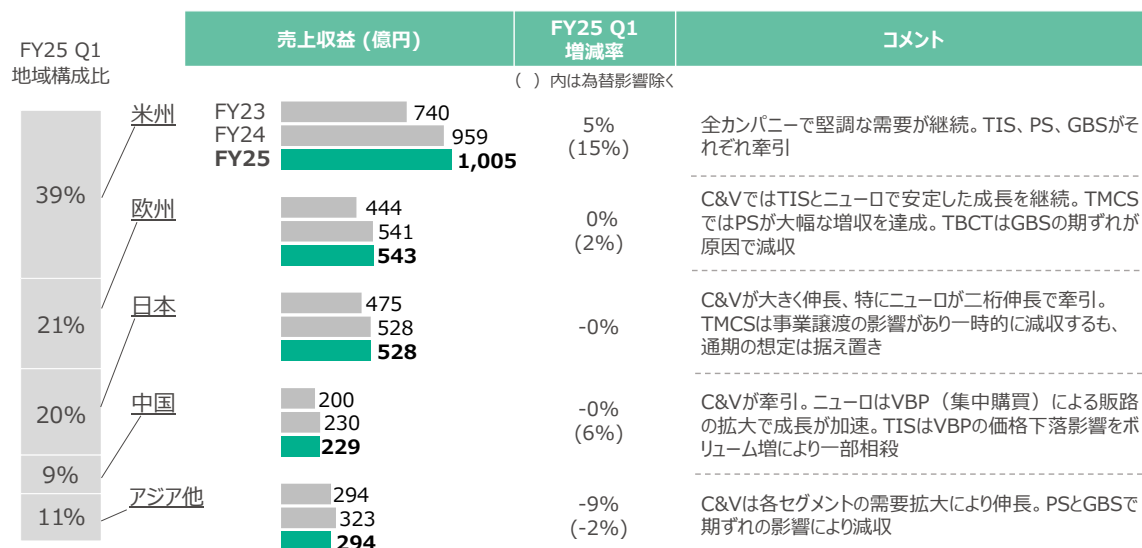
「一般管理費」は、事業の拡大に伴っての増加となり、想定通りの水準となっております。

「研究開発費」は、発生タイミングのずれにより昨年と同水準となっておりますが、年間予測の変更はありません。

「為替の影響」は、フローがマイナスの一方で、ストックはプラス影響をもたらし、増益に寄与しております。

次のスライドをお願いします。

地域別売上収益：米州が力強く全体を牽引



(C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー、TIS: インターベンショナルシステムズ、CV: カーディオバスキュラー、HCS: ホスピタルケアソリューション、LCS: ライフケアソリューション、PS: ファーマシューティカルソリューション、GBS: グローバルブラッドソリューション、GTI: グローバルセラピーソリューション)

©TERUMO CORPORATION

6

TERUMO

地域別売上収益です。

米州では、需要の拡大が継続し、現地通貨ベースで二桁伸長を達成しました。全カンパニーが高伸長となり、グローバルの売上を牽引しました。

欧州では、PLAJEX製品の好調が牽引し、ファーマシューティカルが大幅に増収しました。TBCTでは一部地域での受注タイミングが後ろ倒しとなった影響で、Q1では一時的に減収となりましたが、今後の回復を見込んでいます。

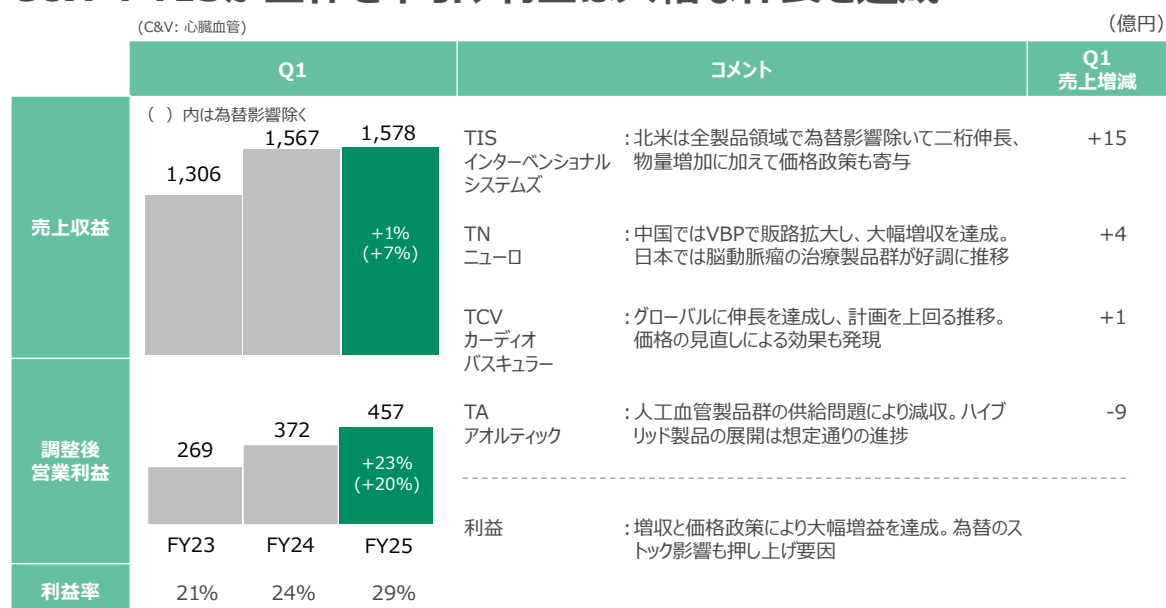
日本では、C&V、特にニューロが二桁伸長を達成し、全体を牽引しました。一方、TMCSは事業譲渡や供給問題の影響を受け、一時的に減収となっています。

中国では、VBPによる販路の拡大が奏功したニューロが大幅伸長を達成しました。TISではVBPによる価格下落を物量増加で一部相殺しました。

アジアは、C&Vでは増収を達成。ファーマシューティカルとグローバルブラッドソリューションでは、入札のタイミングが遅れたことによりQ1では減収となりました。

次のスライドをお願いします。

C&V : TISが全体を牽引、利益は大幅な伸長を達成



©TERUMO CORPORATION

7

TERUMO

カンパニー別に業績をご説明します。まず、心臓血管カンパニーです。

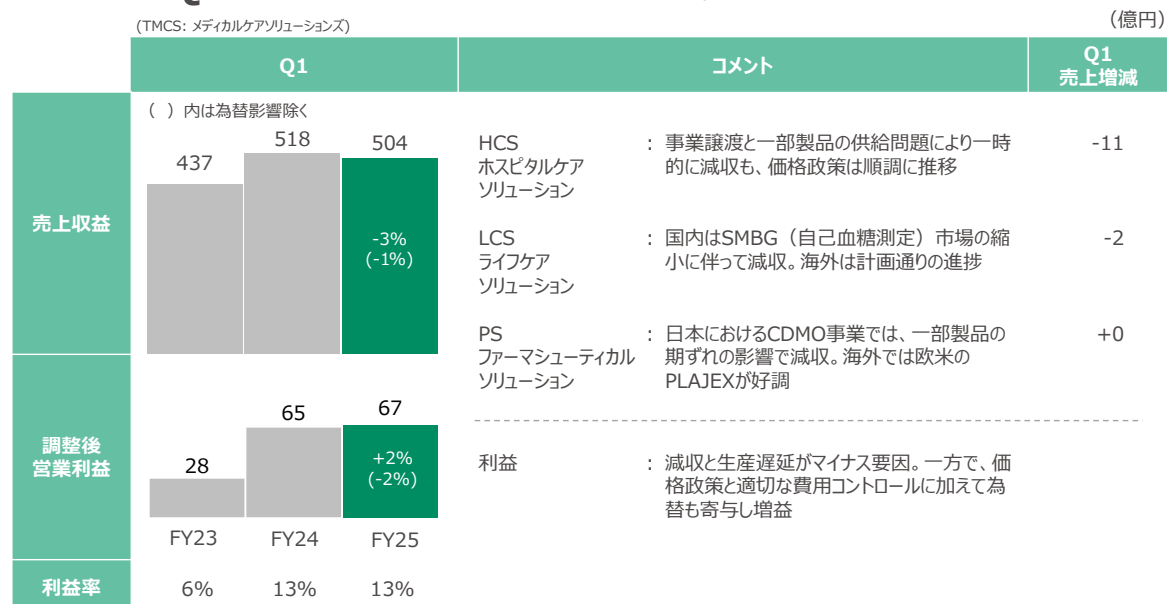
売上収益は、現地通貨ベースで7%伸長と、北米を中心にグローバルで好調が継続しました。

事業別伸長率では、TISとニューロが牽引しました。アオルティックでは、現時点では解消しているものの、Q1の期間中に人工血管製品群で供給問題が生じ減収となりました。一方でハイブリッド製品の拡販は順調に推移し、減収とはなっているものの、収益率では改善しています。

利益率も29%と5ポイントの大幅改善となりました。価格政策、収益改善策、不採算地域の見直し等各種施策が寄与しました。為替のストック影響もプラスにはたらき、想定を上回る利益伸長となりました。

次のスライドをお願いします。

TMCS : Q1では減収も、通期は計画通りの増収増益を想定



©TERUMO CORPORATION

8

TERUMO

TMCS、メディカルケアソリューションズです。

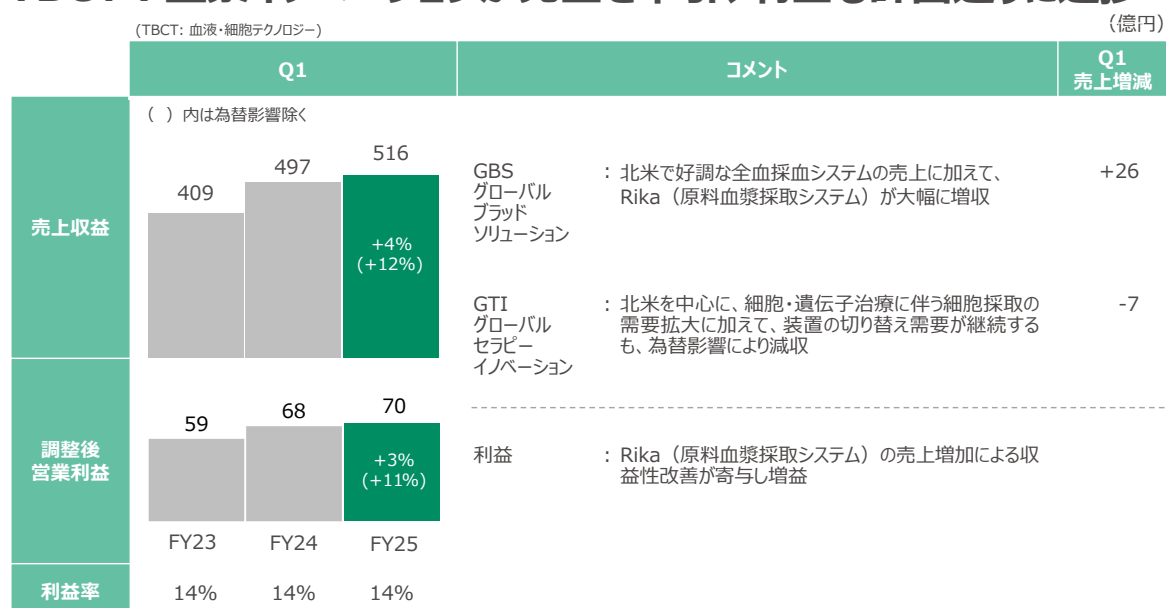
売上収益は、ホスピタルケアにおける事業譲渡と、一部製品の供給問題により一時的に減収となりました。4月から行っている価格政策は順調に進捗しています。またファーマシューティカルでは、国内CDMOビジネスの一部で納品タイミングの変動が当四半期では減収要因となっておりますが、年間では増収することを想定しております。海外ではPLAJEXが好調を維持しております。

利益については、価格政策と為替はプラスにはたらき、実勢レートベースでは増益となっておりますが、減収とファーマシューティカルの生産遅延がマイナス要因となり、現地通貨ベースでは減益となりました。

一時的な要因により売上、利益ともに影響はありましたが、通期では計画通りの増収増益を見込んでいます。

次のスライドをお願いします。

TBCT：血漿イノベーションが売上を牽引、利益も計画通りに進捗



©TERUMO CORPORATION

9

TERUMO

TBCT、血液・細胞テクノロジーです。

売上収益は、グローバルブラッドソリューションに含まれる血漿イノベーションが大幅に伸長しました。既存顧客へのRikaの導入は完了し、今後オペレーションの最適化が進むにつれて収益もさらに増加する見通しです。コアビジネスも概ね想定通りに進捗しております。

グローバルセラピーイノベーションでは、北米を中心として、細胞・遺伝子治療に伴う細胞採取の需要が拡大していることに加え、一部装置の置き換え需要も寄与し、現地通貨ベースで増収となりました。

利益は、Rikaの売上拡大による収益性改善が牽引し増益となりました。

次のスライドをお願いします。

今期の見通し

関税影響は好調なファンダメンタルズにより緩和、FY25業績予想は据え置き

関税影響



- 100億円程度*（FY25通期AOPベース）
*米国輸入：4-7月 一律10%、8月以降 日本からの輸入15%
- 影響は主に下期に発現

ファンダメンタルズ



- 為替影響を除いても業績予想の前提を上回るQ1の推移
- 総じて良好な事業環境、特に北米と中国を中心に需要増が継続
- C&Vを中心にグローバルの価格政策が想定よりも大きく寄与。関税影響も価格転嫁を実施予定

最後に、今期の見通しについてお伝えします。

まずは関税影響についてです。本日時点で発表されている関税のインパクトを計算しますと、今年度の影響額は100億円程度となっております。主に日本からの関税率変更が影響し、前回の想定額170億円から縮小しました。

Q1に含まれている関税影響は現地側の在庫があったことなどにより極めて限定的であり、影響の大半は下期に発現する想定です。

一方で、当社のファンダメンタルズは堅調で、第1四半期は為替影響を除いても年間見通しのベースとなっている計画を上回る推移をしております。特に北米と中国では需要が拡大しており、これは今後も継続する見通しです。加えて全社で推進している価格政策も想定以上の効果を上げており、今後は関税影響の軽減に向けての価格転嫁も予定しております。もちろん状況によっては全額を今期中に転嫁できるということではないですが、関税影響を最大限緩和できるよう努めます。前述の好調なファンダメンタルズも考慮し、現時点では今期の業績予想を据え置いてこれを達成すべく進めてまいります。

以上で私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。



参考資料

P&L（四半期推移）

（億円）

		FY24 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY25 Q1 (4-6月)
売上収益		2,582	2,505	2,636	2,639	2,600
売上総利益		1,376 (53.3%)	1,395 (55.7%)	1,451 (55.1%)	1,385 (52.5%)	1,455 (56.0%)
一般管理費		748 (29.0%)	732 (29.2%)	777 (29.5%)	818 (31.0%)	755 (29.1%)
研究開発費		174 (6.7%)	194 (7.7%)	187 (7.1%)	188 (7.1%)	164 (6.3%)
その他収益費用		-8	-38	-30	-138	24
営業利益		446 (17.3%)	431 (17.2%)	458 (17.4%)	242 (9.2%)	559 (21.5%)
調整後営業利益		511 (19.8%)	529 (21.1%)	553 (21.0%)	441 (16.7%)	591 (22.7%)
四半期 平均レート	USD	156円	149円	152円	153円	145円
	EUR	168円	164円	163円	161円	164円

販管費（四半期推移）

（億円）

		FY24 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY25 Q1 (4-6月)
人件費		398	384	406	430	406
販促費		52	47	54	60	55
物流費		51	59	56	57	57
償却費		70	68	70	71	68
その他		178	175	190	200	169
一般管理費 (売上比率)		748 (29.0%)	732 (29.2%)	777 (29.5%)	818 (31.0%)	755 (29.1%)
研究開発費 (売上比率)		174 (6.7%)	194 (7.7%)	187 (7.1%)	188 (7.1%)	164 (6.3%)
合計 (売上比率)		922 (35.7%)	926 (37.0%)	963 (36.6%)	1,006 (38.1%)	920 (35.4%)
四半期 平均レート	USD	156円	149円	152円	153円	145円
	EUR	168円	164円	163円	161円	164円

販管費（前年同期比）

（億円）

	FY24 Q1	FY25 Q1	増減率	為替除く 増減率
人件費	398	406	2%	8%
販促費	52	55	6%	10%
物流費	51	57	13%	19%
償却費	70	68	-2%	4%
その他	178	169	-5%	-0%
一般管理費計	748	755	1%	6%
（売上比率）	(29.0%)	(29.1%)		
研究開発費	174	164	-5%	-1%
（売上比率）	(6.7%)	(6.3%)		
販管費合計	922	920	-0%	5%
（売上比率）	(35.7%)	(35.4%)		

調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY24 Q1	FY25 Q1
調整後営業利益	511	591
調整① 買収無形資産の償却費	-56	-51
調整② 一時的な損益	-9	19
営業利益	446	559

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買収関連費用
- 減損損失
- 損害保険収入
- その他一時的な損益
- 訴訟関連損益
- 事業再編費用
- 災害による損失

調整②「一時的な損益」の主な項目	FY24 Q1	FY25 Q1
事業再編費用	-11	-13
製薬会社からの損失補償	-	32
その他	2	-0

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

	FY22	FY23	FY24	FY25Q1	FY25予想
設備投資	758	784	825	173	950
償却費	635	702	781	194	830
買収無形償却費	188	200	210	50	200
その他	447	502	571	144	630

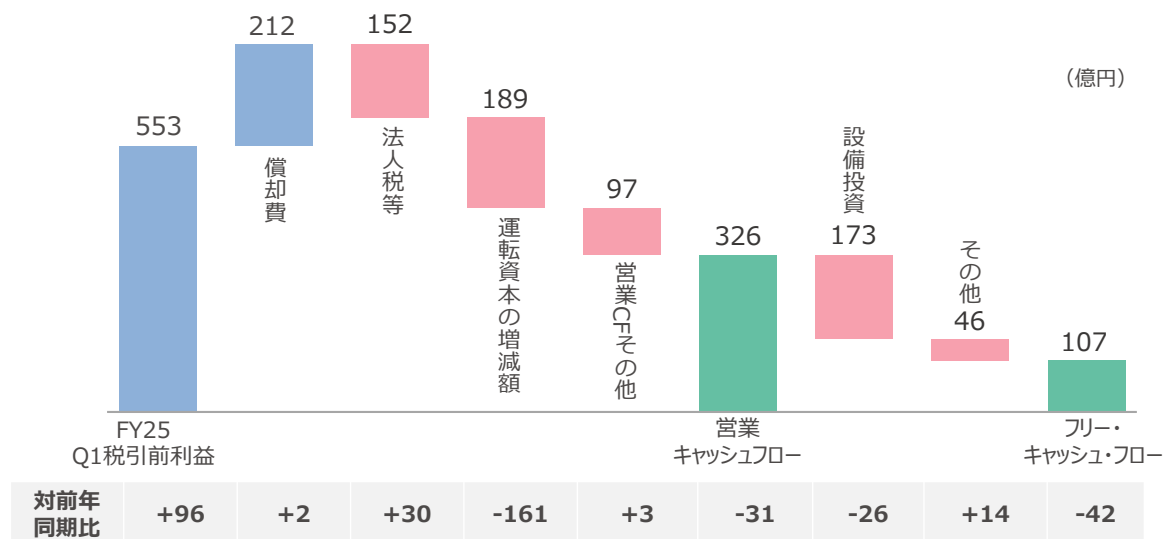
設備投資は、建設仮勘定計上ベース・リース含まず、償却費はリース償却（IFRS16）含まず

■ FY25Q1実績（173億円）：

CDMO（開発製造受託）等生産体制強化のため甲府工場内の新棟建設他、原料血漿採取関連、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続

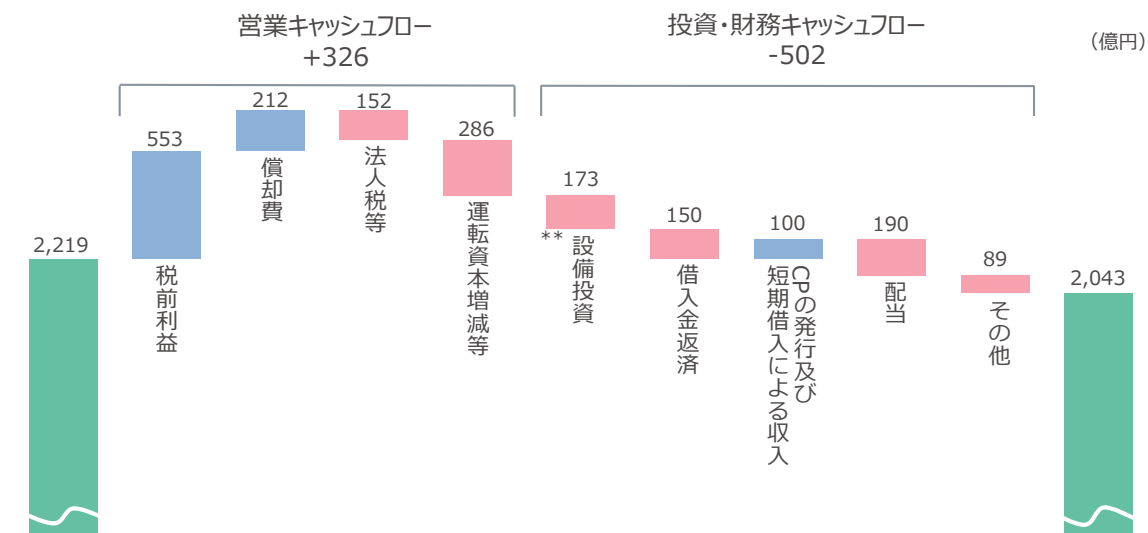
	FY22	FY23	FY24	FY25Q1	FY25予想
研究開発費	616	691	742	164	715

フリー・キャッシュ・フロー



設備投資は建設仮勘定計上ベース

キャッシュフロー



* FY24末
現預金残高

*期末現預金残高はB/Sの「現金及び現金同等物」と整合
**建設仮勘定計上ベース

FY25Q1末
現預金残高

為替感応度

1円の円安に対しての年間影響額（フロー）

（億円）

	USD	EUR	中国元
売上収益	28	12	40
調整後営業利益	3	6	23

1円の円安に対しての影響額（ストック）

	USD	EUR	中国元
調整後営業利益	-3.0	-1.0	-2.5

